

ミュオンチャンネル完成式典に出席して

永嶺謙忠氏が説明されたように、理学部中間子科学研究センターとトライウム研究所が中心となって建設してきた、日加協力事業の超伝導ミュオンチャンネルが昨年9月にめでたく完成し、昨年12月8日にリボンカットの式典がトライウム研究所で行なわれた。私は藤田宏理学部長の代理として理学部を代表して式典に出席した。

この協力事業は、山崎敏光原子核研究所長が、当時理学部の中間子科学実験施設長であった当時から計画され、日加両国がそれぞれ1億円ずつの予算をつぎこんで完成させたもので、トライウム研究所長 Eric Vogt 教授をはじめカナダ側の喜びと日本側に対する感謝の気持ちの大きいのは、正直言ってびっくりもし、また大変感激した。その一端を、私の拙い文で紹介するより、当日トライウム研究所の式典出席者(約百名)に配布された Vogt 教授によるアナウンスメントを原文のま

上 村 洸 (物理学教室)

Thursday, 8 December, 1988
You Are Invited to the Ceremonies
Celebrating
the Opening of TRIUMF's Newest Beam Line
M9B
which uses a Superconducting Magnet
Contributed by Japan
to Produce High Fluxes of Negative, Polarized Muons

PROGRAMME

Invited Talks in the TRIUMF Auditorium

- 15:00 *The Physics of High T_c Superconductors*
H. Kamimura, Chairman, Physics Dept., Tokyo University
- 15:40 *Muon-Catalysed Fusion*
K. Crows, Lawrence Berkeley Laboratory
- 16:20 *μ SR - Applied Parity-Violation*
J. Brewer, University of British Columbia
- 17:15 Opening Ceremony in Meson Hall

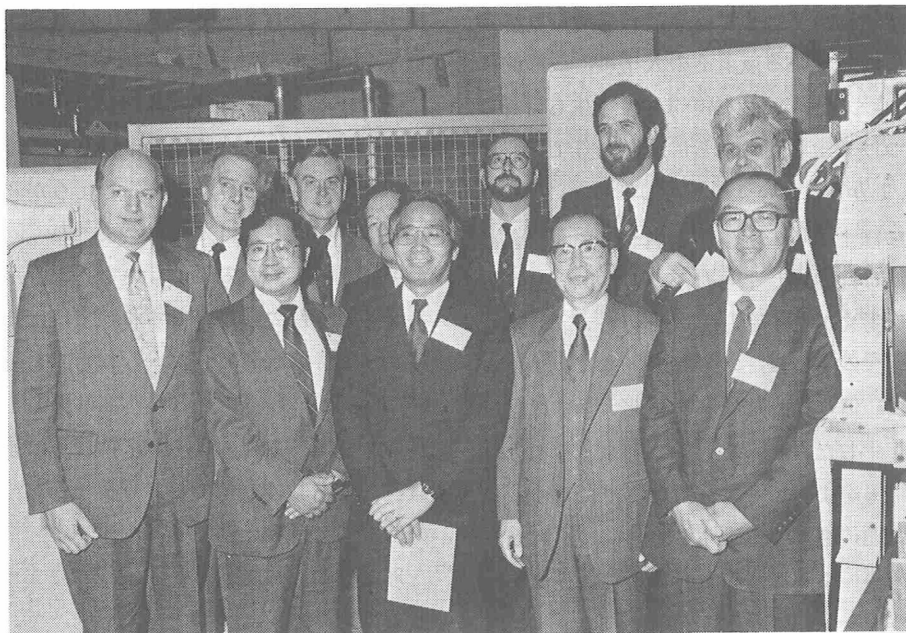
You are invited to watch from the mezzanine level
in the Meson Hall. The distinguished guests will
assemble beside the M9B beam line, and speak from there:

Dr. K. Kikuchi - Vice-President, KEK
Prof. H. Kamimura - Tokyo University
Prof. T. Yamazaki - Tokyo University
Dr. J. Child - National Research Council
Dr. C. Greenhill - Government of British Columbia
Dr. B. Clayman - Chairman, TRIUMF Board of Management
Mr. E. McRae - Mitsubishi Canada Ltd.
Mr. N. Uchidori - President, Nycom
Dr. E. Vogt - Director, TRIUMF
Official Ribbon-Cutting at Beam Line

御報告と致したい。

なおこの事業については、昨年12月27日の日本経済新聞「科学技術」欄で詳しく紹介されている。またトライアムフ研究所に数日滞在して、当理学部の中間子科学研究センターをはじめ日本の諸大

学・研究所の研究者が国際舞台の中でその中心となって活発に研究を推進し、またその研究が国際的に高く評価されることを眼のあたりに見て実に嬉しく存じた次第である。



前列右から菊池健高エネルギー研副所長，筆者。

後列右端 E. W. Vogt トライアムフ研究所長，右から4人目山崎敏光原子核研究所長